

阪南市日中友好協会主催中秋明月祭出席報告

見本重宏

中秋の明月 9月8日、大阪府最南端の岬町西山浄土宗鶴舞山宝樹寺にて、明月祭が開催され、お招きを受け出席しました。当日は、歌や踊りを披露する大阪大学中国人留学生と共に、府日中副理事長清水正弘（地区協会委員会委員長）氏も参加されました。



宝樹寺は、山の中腹にあり大阪湾を一望でき、また昭和30年頃紀淡海峡海底より発見されたナウマン像化石を供養展示した事で化石寺とも云われ、更に嫁の実家の菩提寺でもあり、流石に地域未着の友好交流を進める阪南日中の日頃の活動を窺える。



本堂の御本尊阿弥陀如来の前で、留学生の歌や踊りを披露するユニークな演出に、ご住職含め出席者の笑顔が絶えない、記憶に残る明月際となりました。特にチアリーダーには御本尊もビックリしたと思います。留学生に聞くと中国国内バスケット試合ではよく行っているとの事。

懇親会に移り更に場が和やかになり、各テーブルで話の華が咲き大いに盛り上げられました。清水氏と懇談時、今度10月5日阪南日中と関西日中共催で総領事館と中国国家観光局を招き「阪南市秋祭りを楽しむ会」を開催することの主旨説明を行いました。各地の友好会が、夫々の持ち味・役割分担をして共同開催することが重要であり、共存と切磋琢磨する競争意識が、民間交流団体には必要と述べ、賛同を得ました。

今回住職から徳島県より中秋明月祭にお越し頂いた付浄海さんの紹介がありました。彼は、(株)アーシス（翻訳・通訳・貿易）を経営していたが、仏門に入る事を決意し現在修行僧として研鑽を積んでいるとの事。彼から浄空法師の講和「仏法を知ろう（志善で円満なる教育）」の本を頂き勉強中。彼のご両親は中国残留孤児と聞き、私の出生秘話も明らかにして、徳島県在住の「元解放軍日本人兵士」に電話をして、日中友好活動に参加したい人を紹介する旨を伝え、彼と替わりました。今回は色々な出会いがありました。

